

「ウクライナ避難民支援カンパ」を直接届ける



ヒューマンの代表にカンパを手渡す



ヒューマンのみなさまと共に



支援物資に貼り付けられたJR総連のロゴ



ウクライナへ到着した支援物資



倉庫に集められた支援物資

みなさまからご支援していただきました「ロシアのウクライナ軍事侵攻による避難民支援カンパ」について、7月24日～29日、JR総連は、ポーランドでウクライナ避難民支援をおこなっている「人間のための人間の支援基金(ヒューマン)」を訪問し、直接手渡してきました。

2月24日に突如として始まった、ロシアによるウクライナ侵略から5か月が経った現在も、ウクライナ国内ではロシア軍とウクライナ軍との戦闘が続き、罪もない民衆が犠牲となり尊い命が奪われています。また、この戦禍から逃れるために多くの女性や子どもたちが、ポーランドなどの隣国へ避難しています。こうした人びとへ手を差し伸べる支援の取り組みとして、JR総連は「ロシアのウクライナ軍事侵攻による避難民支援カンパ」を呼びかけ、組合員と家族のみなさまなどから、多くのご支援をいただきました。

この避難民支援カンパについて、JR総連は責任を持って避難民支援に活用してもらうために、7月24日にJR総連を代表して山口委員長がポーランドを訪問し、これまでJR東労組がポーランド研修で築き上げた関係をもとに、現在ポーランドでウクライナ避難民支援をおこなっているボランティア団体「ヒューマン」を訪問し、支援カンパ金を届けてきました。

「ヒューマン」の代表からは、「JR総連の組合員やご家族などからいただいた想いのこもったカンパは、一円たりとも無駄にしない」「購入した物資の品目をレポートし、現地でのようなかたちで届いているか報告する」など、組合員と家族のみなさまからいただいた支援に対して、感謝の言葉と決意が述べられました。

早速「ヒューマン」では、支援物資として医療品や学用品を購入し、JR総連のロゴを付けてウクライナ避難民への支援と共に、ウクライナ国内に残っている市民や子どもたちへ物資を届けたことが報告されています。

(2面に現地行動報告)

「ウクライナ避難民支援カンパ」現地行動報告

7月25日(月) クラクラフ



私たちは、前日夜にクラクラフへ到着し、この日は最初に「希望の仲間基金」が運営する自閉症施設を訪れました(上の写真)。入所している方や、通ってくる方々が、セラピーの環境としてスूप作りをして、ウクライナ避難民へ提供しています。施設には農場が併設されており、果樹や野菜の栽培もセラピーの一つとして取り組んでいます。スूप作りをするところから避難された方が1人滞在もあり、この時もウクライナから避難された方もいました。

下の写真は、スूपの受け渡し窓口です。スूपの他にも果実を漬けたものや、パン、おむつなどの必需品も支援しています。この日はウクライナに父母を残して子供だけで避難していた子たちを、イタリヤへ送り出した直後で、施設の方々は非常に辛い思いをしたと語っていました。



施設にいたある女性は、1年前に両親と共にウクライナのオデーサからクラクラフに来た方でした。オデーサには祖母がおり、自宅も攻撃からは免れているそうです。しかし食料品、特に塩が不足したりするようで、届けるにもロシアの攻撃という大変な難関が伴います。彼女は「1年前は何でもなかったのに、突然戦争が始まりました。21世紀なのに信じられない」と語っていました。

物資や役所の手続きなど避難先での生活支援を行なっているスタッフによると、最も不足しているのは「お金」だそうです。「侵攻直後はクラクラフでボランティアで、お金の薄れ始めている」と語っていました。結局、国や行政に頼れず、支援の必要性を発言した民の力で支援を続けていくしかないことを強く感じました。

7月26日(火) クラクラフ

この日は、この間ポーランド研修でお世話になっていた旅行会社「LUMIKO」に行きました。社員は50人で、家族的な結びつきが強い会社です。



上の写真の左から3番目が社長のピエスワフさん。2番目がマグダさんです。ピエスワフさんはウクライナの方と人脈があり、ロシアの侵攻直後から不足品の連絡を受けて物資支援をしています。マグダさんは、社員で「何かできないか」を相談していた時に、いち早く自ら手で車を運転してウクライナに入り物資支援をする共に、ウクライナからの母親と子供を中心とした避難民をポーランドに連れてくる活動をしています。マグダさんの家では、現在7人の避難民を受け入れているそうです。「LUMIKO」で調達した物資は、「人間のための人間

の支援基金(ヒューマン)」がウクライナに物資を届ける際に、一緒に持つていってもらっています。

その後、「ヒューマン」の事務所(下の写真)を訪れ、「ヒューマン」の代表にカンパを渡しました。代表からは「一円たりとも無駄にしない」「基金はすべて支援物資を購入するために使わせてもらう」「購入した物資の品目、値段をレポートする」「現地でどのようなかたちで届いているかも報告する」など、感謝の言葉と強い決意が述べられました。

JR総連からのすべての支援物資には、JR総連のロゴマークを入れてもらいました。ちょうど翌日、ウクライナに向けて大型トレーラーで出発することになっていて、私たちの支援物資も届けてもらいます。続いてカミュインという村にある避難民受け入れ施設を訪問しました(上の写真)。基本的な母親と子供、そのおばあちゃん家族ごとに部屋を使っています。当初は30家族くらいいたそうですが、現在残っているのは5家族程度です。



意見交換をしました。みなさん前にすると、戦闘の記憶を呼び起こしてしまうのではないかと聞きたいことも聞きづらくなりますが、勇気を持ってゼレンスキに「プーチンと直接話して戦争を終わらせてくれ」と言えないのかと聞くと、「プーチンは嘘つきだから何を言ってもダメ」「戦闘に勝つてロシアを追い返すしかない」と決して明るい展望とどけていけません。しかし、みなさんはじっと我慢し、明るく振舞っていました。

7月27日(水) クラクラフ

この日は、まず「日本美術技術センター(マンガセンター)」を訪問し、続いて併設されている「日本語学校」を訪れました。

偶然ですが、アンジェイ・ワイグダ監督の奥様に会いました。ワイグダ監督は2016年に亡くなりました。奥様は現在92歳。とてもお元気です。初対面とは思えないほど私たちの訪問をとて歓迎してくれました。

センターには桜が植えられ、毎年きれいな花を咲かせるそうです。寄付してくれたのは旭川の「MS会」。当時1000本の寄付を受けました。こちらの他にシヨパンの生家やワルシヤワにも植樹されています。



日本美術技術センター



下の写真で、私のとなりの方がウクライナから避難しているタヤさん。正面が館長のボグナさん。館長の左が日本語学校の教師のピオラさんです。

タヤさんはウクライナ東部のドニプロというところから避難しています。父親はロシア人、母親はウクライナ人です。やはり突然のロシアの侵攻は信じられないと言っています。プーチンへの嫌悪感は大いです。どうしたら戦争を止めることができるのか、タヤさん、ボグナ館長、ピオラ先生と2時間くらい議論しました。話し合いの解決は無理「その理由はプーチンが嘘つきで約束を守らないから」「ロシアのことを私たちはよく分かっている」という話の繰り返しで、非常に難しい問題だと感じました。ヨーロッパの各国の侵略の歴史、民族などが絡み合い、価値観が固まっているように感じます。昨日と同様にウクライナの反撃でロシアを追い返すしかないという意見でした。

その後、「ヒューマン」の代表から今回の寄付の感謝状をいただきました。これまでお世話になったドンブロフスキ夫妻、「LUMIKO」の社長のワイエスワフさん、「ヒューマン」の代表夫妻もその場に来てくれました。ワイエスワフさんは、ポーランド研修を手伝った際に参加者からももらった「だるま」を持ってきました。ウクライナの戦争が早く終わることを願って半分ずつ「目入れ」をしました。

ドンブロフスキさんは話の中で、ソ連によって隠されてきた真実を教えてもらい「共産主義」に対して反発を持った経緯、「連帯」が創られるまでの地下活動、「連帯」代表として日本に招かれて松崎明さんとの出会い、ポーランドでの松崎さんとの思い出など多くの話をいただきました。第一線は退いています。これからもJR総連との交流を続けていくべきだと力強い意志が示されました。

3日間というスケジュールでしたが、松崎さんが先導してJR総連やJR東東組が、ポーランドと築き上げた友情と連帯の大きな重さを感じました。マンガセンターでは、「ここまで来れたのもJR総連、JR東東組のおかげ」「ワイグダさんも講演するときは、必ず松崎さんやJR総連組合員の貢献を讃えることを忘れなかつた」と言われました。これから友情と連帯を深めていくのは私たちや次の世代の責任だと感じました。今回は組合員のカンパを直接届ける任務でしたが、これまでの日本のポーランドとの連帯に感謝される場面が本当に多くありました。



戦争終結を願い「だるま」に目入れ



ヒューマンから感謝状を頂く



北海道地協「第34回定期委員会」を開催



JR総連北海道地協は7月27日、札幌市内で第34回定期委員会を開催しました。

主催者を代表して中川議長から、2022JR総連春闘ではJR北海道労組とJR貨物労組のペア獲得が、各単組・グループ会社に波及した。そして、第26回参議院議員選挙について触れると共に、JR北海道労組・JR貨物に対する必要な支援の実現は来年が正念場であり、共通の課題であると挨拶がありました。

また、来賓で参加いただいたJR総連熊谷書記長から、2022JR総連春闘で加盟8単組が連携し、ペア獲得や定昇・賃上げの相乗効果を生み出した、ウクライナ避難民支援カンパの御礼、JR西日本の赤字線区公表以降国交省の動きが加速していると、挨拶がありました。

質疑応答では、JR北海道労組・JR貨物労組から、2022JR総連春闘における成果と課題、難民支援カンパと9条連運動の活性化、参議院選挙、JR貨物への支援実現に向けた国会要請行動に関する発言がありました。事務局の答弁ののち、23春闘に向けた課題克服、労働者の連帯・共闘で日本労働運動の危機に立ち向かい、組合員・家族の利益と安心社会の実現に向けてたたかう方針を満場一致で決定しました。

JR総連結成35周年、安全再確立、一切の戦争政策反対、組合員の団結力のもと労働者の未来を切りひらくために、JR総連北海道地協は奮闘します。

【2022年度新体制】

- 議長 中川 憲一(北海道労組)
- 副議長 河上 泰生(北海道労組)
- 事務局長 宮下 誠(貨物労組)
- 幹事 高橋 秀幸(北海道労組)
- 杉山 涉(北海道労組)
- 佐久間 昌広(貨物労組)
- 本間 宣至(貨物労組)
- 相澤 一徳(北海道労組)
- 武藤 仁泰(貨物労組)
- 会計監査員

加盟単組の大会が終了 新三役(四役)体制の報告

JR総連に加盟する各単組の大会が終了いたしました。各単組の新三役(四役)体制についてご報告いたします。

単組名	委員長	副委員長	書記長	書記次長
JR北海道労組 (6/12開催)	中川 憲一	河上 泰生	高橋 秀幸	
JR東労組 (6/21開催)	佐藤 英樹	佐藤 伸也/高橋 孝一/下村 悟史 佐々木克之(新)/鶴ノ沢信一(新)	加藤 誠	
JR東海労 (6/12開催)	木下 和樹	淵上 利和(新)/高山 浩/畑野 浩孝 杉澤 秀則/半場 弘恭/荻野 隆一/笹田 伸治	本橋 浩司	
JR西労 (7/7開催)	前川 誠(新)	西村 勝/小川 剛/田村 豊(新) 木村 正(新)/白旗 洋光(新)	幸 義晴(新)	
JR貨物労組 (6/26開催)	高木 康之	松村 慎一/阿部 進	村上 貴史	
鉄研労 (7/9開催)	中村 竜	浦越 拓野(新)/金元 啓幸/池田 遼平(新)	奥田 大樹(新)	野田 俊太 小林 樹幸(新)
システム労 (7/9開催)	三枝 祐野(新)	伊島 達也/小山 修一/大澤 篤史	木部 宏昭	寺西 慶多 佐々木智之(新)
聚楽労組 (7/19開催)	斎藤 敏彰	関 隆	加藤 明	

青年協議会「第22回定期総会」



JR総連青年協議会は7月23日、目黒さつきビル会議室において「第22回定期総会」を開催し、リモート参加者を含め約40名が参加しました。

武田議長は、2022JR総連春闘のたかいや、ロシアのウクライナ侵攻に触れ「弱い立場の者の犠牲の上に成り立つこの社会の問題や、会社施策等について議論し、実践を通じて得た教訓などを発言していただき、全体で定期総会をつくっていただきたい」と挨拶しました。

質疑では「22春闘から感じたJR総連運動の意義」「地方連合での平和問題の発信（JR北海道労組）」「組織強化、再加入の取り組みでの自己保身との葛藤（JR東労組）」「JR総連加入の経緯と会社とたたかっていく決意（JR東海労）」「業務課題での会社とのたたかいと他労組組合員の組織化（JR西労）」「参院選、22春闘、平和問題、レクリエーション等を通じた職場での組織化（JR貨物労組）」「青年部要求に基づいた初任給引き上げ、手当新設の取り組み（システム労）について、指摘も含めた相互討論がおこなわれました。

その後、池尻幹事が総会のまとめをおこない「春闘では統一闘争ができていない差別との差が現れた」「課題も発言されたが、課題を明確化することは大切」「指摘だけで終わることなく、共に解決に向けて考えることが必要」「共に組織強化・拡大を実現していこう!」と呼びかけました。

JR総連は、9月に開催する第1回幹事会で決定される青年協議会新体制と連携し、組織強化・拡大の取り組みを続けていきます。

「もしも」に備え
「もしも」を防ぎ
「もしも」に向き合う。

公式キャラクター
ピットくん

たすけあいの輪をむすぶ
こくみん共済(全労済)
coop

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

SUSTAINABLE GOALS
DEVELOPMENT GOALS

誰ひとり取り残さない
金融サービスを
これからもずっと。

はたらくあなたの、
いちばんそばに。
R35さん

あなたと家族に安心届けます。保険はおまかせください。

各種のお問い合わせは、
パソコン・スマホ、から
可能ですので、ご利用を
お待ちしております。

《取扱商品》

- ▲ 自動車保険・火災保険
サークル保険
- ▲ がん保険・医療保険・介護保険
給与サポート保険
- ▲ JR積立年金
- ▲ すみっこ商店・伊東さつき会館

JR総連・各単組賛助団体
(株)鉄道ファミリー 検索

〒141-0031
東京都品川区西五反田3-2-13 目黒さつきビル
TEL 03-3490-3862 FAX 03-3491-7198